

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第29号 (2009 07)
事務局川西地区自主防災会

「～自分の命は自分で守る～」

原点にかえってみよう

香川県防災士会会長 久保 雅和

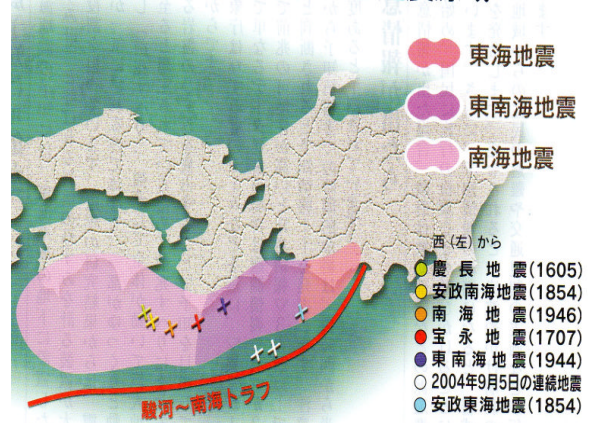
「防災の日」が近づきそれぞれの各種防災機関、自主防災組織、教育機関などなど準備、訓練に余念がないことでしょう。「防災から減災へ」といわれ続け約10余年たちます。

南海、東南海地震は今後30年の間に高い確率で必ず発生すると言われていいます。今一度、原点に戻って「**自分の命は自分で守る**」を考えてみませんか。この大切なことでできてなければ家族、地域の人を守ることができません。各家庭や各事業所でどの程度の対策が行われているのでしょうか？点検してみませんか？

家屋の耐震補強は行政の支援もあって専門家に任せるとして、家庭や事業所でできる対策等についておさらいをしてみましよう。

南海、東南海地震では香川で震度5弱～震度6弱(一部で6強)が予想され、香川県の被害想定では死者200名、負傷者3300名、家屋の全壊4500棟、半壊17000棟、浸水50000棟など想定されています。死者200名は昨年(2008年)の香川県の交通事故の死者が60余名ですから、約3倍強の被害となります。家具転倒防止対策はもちろんのことですが、特にピアノや大型冷蔵庫の固定は

東海、東南海、南海地震の想定震源域



必ずやって来る!! 南海地震

南海地震について

南海地震とは、土佐湾沖から紀伊半島沖の地域を震源として、おおむね100年～150年の間隔で繰り返し発生している地震です。そのため、次の南海地震は今後、30年以内では50%程度、50年以内なら80～90%程度の確率で発生する可能性があると考えられています。

南海地震による被害想定



「香川県南海地震被害想定調査」に基づく冬季午後6時頃の被害想定

エフエム香川「防災手帳」から引用

重要です。7階以上のマンションでは1メートルから1.2メートルの揺れが予測され、これらが暴走することが考えられます。又事業所でも複写機などの重物機器の暴走が考えられ対策が必要です。各家庭や事業所で対策が施されてい



れば被害が大きく軽減され、減災に多いに寄与し、家族、地域の人々を救助、安全な場所への避難誘導ができることでしょうか。「助けられる人より助ける人」になりましょう。また**緊急地震速報**の活用も考えておくことも必要ではないでしょうか。

「南海、東南海地震」では

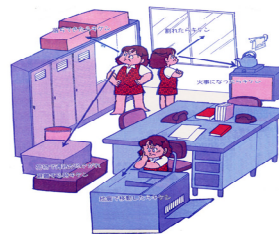
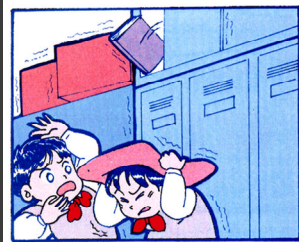
香川県に大きな揺れ(震度5弱~6弱)の到達までに約30秒前後の時間があると想定されています。30秒

しかないか考えるか、30秒もあるか考えるかで大きく行動が変わります。30秒あれば何が出来るかを各家庭でシミュレーションしてみることも大切かと思われています。

これまでに多く語られていることですが人には「正常化の偏見」ということが言われ続けられています。



事業所では



それは災害に対する人間の基本的な心理で①根拠のない推測をもって「たいしたことではない」と勝手に思いこむ。②事態を楽観視し、災害を軽視する。災害が起こっても、自分だけは、絶対死なない(大丈夫と考えている)と自分に都合よく考える。③正しい情報を無視して、自分が「そうなってほしい」という気持ちにこだわり客観的な予想でなく、願望を含めた予想を持つ。

例えば、平成16年の高松水害では、高松68歳男性は「いつも各地の水害をひとつひとつのように見ていたが、水が本当に恐ろしいことを肌で実感した。」

高松69歳女性「こんなひどいのは初めて」高松市長「全く油断していた。このような事態は頭の中には無かった」と答えています。

正常化の偏見を頭に入れて、原点に戻っての対策をこころがけ「**自分の命は自分で守る**」を原則に行動していきませんか。